

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立 岡山工業 高等学校
実践場面	主権者教育講演会 講師
実践日時（時期）	（第1回）令和5年6月7日（水）6限 （第2回）令和5年12月13日（水）2、3限
対象生徒（学年）	2年生 304名
連携の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 包括連携協定（ 岡山商工会議所 ） <input type="checkbox"/> その他（ ）
学びの分類	<input checked="" type="checkbox"/> 講演会講師・説明会 <input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 企業訪問・インターシップ ^o <input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究 <input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学 <input type="checkbox"/> その他

実践の内容

【現状】

- ・ 2年生の「総合的な探究の時間」において主権者教育を行っており、毎年、外部講師を招いての講演会を実施している。
- ・ 令和5年度は、積極的に地域社会に参画することを目的に、SDGsの視点で地域社会をよりよくしていく方法や考え方について多面的・多角的に検討していくことを主旨とした。

【実践内容】

- ・ 岡山商工会議所へ「企業連携依頼シート」を提出した。その際、希望連携先は「業種指定」とし、近年、企業内のSDGsに積極的に取り組んでいる企業や地域貢献や地域課題の解決を実際に行っている企業の紹介を依頼し、「(株)中国銀行地方創生SDGs推進部」を紹介いただいた。
- ・ 第1回は体育館で、2年生全員に対して、「企業が行っているSDGsの取組について～なぜ企業はSDGsの活動を行うのか～」という演題で、(株)中国銀行が行っているSDGsへの取組などを講演してもらった。
- ・ 講演後には、講演内容を踏まえて、「自分が企業のSDGs推進室の担当になったら、どのような取組を行うか」という課題を出し、その場で様々なアイデアを出し合った。
- ・ 第2回は各クラスで、4人グループで「社会課題解決型の企業（仕事）を考える」というテーマで話し合いを行った。
- ・ 話し合いの後、自分が企業のSDGs推進室の担当になると想定して、どのような取組を行うかのプレゼン（ポスターセッション（右図））を行った。発表後、生徒同士で評価し合い、最もよかったグループを各クラスで一つずつ決め、その代表グループはGoogle Meetで全クラスに対して発表を行った。
- ・ 発表後は、(株)中国銀行地方創生SDGs推進部の方から指導講評をいただいた。



実践による効果等

- ・ 実際に企業で行われている取組を講演していただくことにより、生徒にとっては、より身近で実践的な学びになった。
- ・ 単に講演会を聞いて終わりではなく、その内容をもとに、与えられた課題に対して自分たちで解決策を考え、さらにそれをプレゼンし、企業の方から指導講評いただくという、体系的な学びにすることができた。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）